

平成9年4月30日現在

新宮東 SHINGUHIGASHI

世帯数 55戸
人口 236人

私たちの字、新宮東には毘沙門堂びしゃもんや地藏堂があり、伝統的な行事が数多くあります。その中のひとつに左義長があり、毎年1月15日に前髪(12~14歳の男子)

が中心に行います。これからもこの伝統ある行事を大切に守っていきたいと思います。

タイマツ

細竹(130~150本)、ワラ(約50束)、太竹(3本)などで組み立てます。
(最近竹も少なくなりました)

毘沙門堂

新村城主および村民の守り本尊として貞和5年(1349)9月に建立されました。

吉祥きっしょうさん

0~7歳位の男児のいる家庭で、字が上手になり健康であるように願いを込めて作ります。



0~7歳位までの男児の父親が吉祥さんを焼き、より高く舞い上がらせます。
(高く舞い上がるほど縁起がよいとされています)

各家庭でお正月や1年間使用したお守りやお札を燃やします。

王地神社よりの燈火にて火をつけます。
(雪や雨が降ると大変です)



平成9年4月30日現在

新宮西 SHINGUNISHI

世帯数 73戸
人口 271人

私たち新宮西（通称＝みやにし）の世帯数は、73戸（6組編成）人口は271人です。そのうち、田園地域であることから、農家戸数は41戸です（約359反）。最近の農業問題を解消するために、平成5年（1993）度から営農組合を発足させ、「儲からなくても損をしない農業」をキャッチフレーズに、農家全戸で取り組んでいます。

字の行事では、愛知川が隣接していることから、春と秋には「川原祭り」が举行されます。古くは、対岸の彦根市側と同時に行われていたものです。能登川町側のこの祭りは、5行政区（福堂・乙女浜・新宮東・新宮西・阿弥陀堂）が、一堂に会して盛大にとり行われており、神輿をかつぐ番が、3年に1度まわってきます。その番が来ると、いろいろと趣向を凝らして渡御しますが、新宮西（新宮東と合同）は、昔からのしきたりにより、派手にすることなく、とり行っています。

しかし、こうした祭りの行事は楽しいものがありますが、また反面、愛知川沿いであることから、台風等による河川の氾濫が心配されます。一日も早い改修を.....。

ほかには、区民親睦運動会・地藏盆・敬老会等の事業があります。また、婦人層で「趣味の会」等が組織され、花いっぱい運動などが行われております。老人層では、平成8年度から「ゲートボール」に取り組んでいます。スタートが随分遅れましたが、こうした取り組みが、これから到来する高齢者社会への対策の一助になることを期待します。また、婦人組織・老人組織による消防自警団があり、毎月1回消火訓練を実施して、字の防火意識の高揚に一役かっています。

茶粥の発祥は、乙女浜と聞いていますが、当字も酒席時やとくに冬期には、各家庭でいただく習慣があります。（1度ご賞味あれ！）

また、最近では若者の字離れ現象が深刻な問題になりつつあります。今後の字の運営にも支障をきたす恐れが出てくることから、いま住んでいる我々が、住みよい村づくりのために.....「ガンバ！」



区民親睦運動会



花いっぱい運動

平成9年4月30日現在

乙女浜 OTOMEHAMA

世帯数 149戸
人口 665人

沿革 乙女浜は、およそ820年の歴史があると聞きます。当初は内湖中の一島村が浅瀬よりしだいに埋立られ、果てに陸地続きとなりました。元禄の始めは戸数129戸余、人口630人余、明治13年(1880)には戸数166戸、人口771人(農家151・商家10)、保有船舶205隻。

農業 農作業には田舟は重要なものであり、農家は最低1艘以上を保有し、島地の耕作田はすべて田舟で人間・稲苗・穀物・稲藁等々の運搬の役目と農作業の足でした。陸地続きの耕作田でも運搬の役目を大きく果たしていましたが、昭和39年(1964)および51年の土地改良事業により農機具は大型および強力化し、まさに機動力の時代となりました。

納税 町役場管轄の諸税の納税は大正の初期から我先にと会議所(区長事務所)へ納められました。しかし勤め人が増え、朝の納税は出勤時間と重なり忙しいため、平成元年(1989)より夜8時から9時までと変更されましたが、納税時間30分前には人の行列ができます(納付書は毎月15日頃に各家庭に配布されます)。

当番祭礼 区には浜之神社という氏神があり、別に新宮東、新宮西、阿弥陀堂、福堂、乙女浜の5カ村が氏子である栗見大宮神社が新宮西に鎮座されます。当番祭礼とは新宮東、新宮西、次に福堂、続いて乙女浜と3年に1回の割で回り来る春祭りです。阿弥陀堂は毎年秋祭りが当番祭礼となります。区の当番祭礼の儀式は、すべて古例通りですが時代の流れとともに多少変化の途をたどっています。祭礼当日は0歳から60歳までの男子は総出で、他の市町村在住の区出身者も

帰村して祭礼に参加をする程です。

当番祭礼は宵宮からはじまり、当日の後宴まで主役若衆は延々と10日余り時を費します。祭典委員長以下役取り8名の家庭は当日の夜を徹しての若衆の無作法の祝い込みを受けなければならず、その接待の親族もなかなかの大役です。とくに目を引くのは当日の出立時の地渡りで、総勢200人余の渡御です。10色から成る色分けの鉢巻きにより、その人の役柄が地元の人なら一目でわかります。

神輿を担ぐ位置のグループ別に、6メートル余のノボリも120本余が若衆の手によって地渡りに参加します。目が何個あっても足りない祭り風景です。

環境(道路・河川) 区内を2分する形で県道が南北に走ります。県道に沿う様に浜川があり、川面にはひしめき合うように田舟が繋がれていました。しかしその面影はいまは見られません。昭和39年を皮切りに浜川、仲小路堀と次々に埋立てられ、自然の流れの川面はすべてその姿を消してしまいました。乗用車が走る字内の道路の約70%以上が埋立河川です。

神社・仏閣 神社は浜之神社(祭神は大国主命)氏子総代にはその年の区長が兼務で就任します。宮世話係は4名で毎年、区の選挙会で2名を選出して前々年の2名が免役となります。

寺は西照寺(浄土真宗西本願寺派・元天台宗蓮台坊)で区民の約60%が門信徒、本照寺(浄土真宗西本願寺派・元天台宗護念坊)も約20%が門信徒です。大字川南に在する浄土寺は、区民の20%が檀家です。

春の当番祭礼(昭和63年)



田舟での秋の種入れ(昭和39年)